

蒼井村正

表紙イラスト：或十せねか

二次元ぷち文庫

カースイーター
呪詛喰らい師外伝
淫女神の森

後編

試し読み版

※本作はあとみっく文庫『呪詛喰らい師 1～3』（キルタイムコミュニケーション刊）とともに読みいただきますと、より楽しみいただけます。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。



カースイーター
呪詛喰らい師外伝

淫女神の森

後編

蒼井村正

表紙イラスト / 或十せなか

登場人物紹介

Characters

ときわぎ さき

常磐城咲妃

「呪詛喰らい師」という異名を持つ少女。幼いころから退魔師としての修業を積んでおり、淫神を自身の身体に封じる使命を帯びている。封じた淫神の力は使うことが可能。

ゆきむら ゆか

雪村有佳

咲妃のクラスメイト。淫神に取り憑かれたところを咲妃に救われて以来、レズ友達として愛しあっている。

るな

瑠那・イリュージア

霊を操る術を得意とする魔術結社「レメゲトン派」の生き残りの少女。かつて咲妃を襲撃したが返り討ちに遭い、仲間になった。

びゆくつ、びゆくつ、どぶどぶぶじゆるるるうううッ！

フタナリペニスに密着した男根から、灼熱のスペルマシャワーが噴き出し、呪詛喰らい師の亀頭をドロドロに汚し抜いてゆく。

「んあ！ くはあああんっ！」

艶めかしく裏返った声を上げ緊縛ボディを硬直させる咲妃の股間は、白い粘塊に覆い尽くされ、男たちの淫情を残らず吸い取った肉柱が、今にも弾けてしまいそうにビクビクとしやくり上げている。

呪詛を吸収した美少女の勃起は、咲妃の爆乳に亀頭を触れさせんばかりのサイズに肥大化して、狂おしいほどの射精衝動に包まれていた。

「くう……ううう……はああ。咲妃ちゃんのギンギンチンポずり、気持ちよかったあ。ビックリするぐらいいっぱい出ちゃったよ」

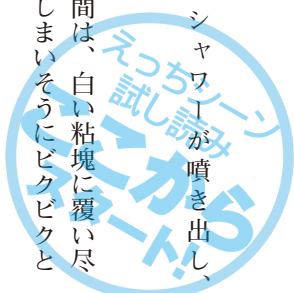
にちゅ……じゅるっ……。

肉竿同士の摩擦快感に果てた最後の一人が、男根と美少女の勃起の間に白濁粘液の糸を引きながら離れた。

（この男で……最後か？）

色っぽく潤んだ目で男たちを見回しながら、呪詛喰らい師は苦行の成果を確認する。

若者たちのペニスは、背徳的な行為の余韻でまだ勃起状態を維持してはいるが、その肉



茎を疼き猛らせていた淫情の焰ほのおはすっかり消え失せていた。

「……ハアハアハアハア……こつ、これで、男どもの淫火、全て鎮めましてございます」
汗ばみ紅潮した美貌を切なげに歪めた神伽かみとぎの巫女は、切れ切れに喘ぎながら淫女神みだらめがみに報告する。

「よきかな……。麗しき巫女と男どもの竿比べ、実によき見物であつたぞ。淫情の焰を糧として、うぬの摩羅まらもよう育つたではないか」

下乳のラインまで届きそうなサイズに肥大化してそそり勃たつた淫ノ根インネを金色の瞳に写しながら、桜の化身は愉しげな声で巫女をねぎらう。

「恐悦至極に存じます……ンッ……くふうんッ！」

蔦状触手に手足を縛められたままの姿で謝辞を述べた咲妃の股間では、さんざん摩擦され、精液の洗礼を浴びて昂ぶりきつたローズピンクの肉茎が痛々しいほどの勃起を見せてけている。

ギンギシと軋みを上げそうな程に充血した陰茎海綿体は、少しでも強い刺激を受けたら即座に暴発してしまいそうな状態だ。

（熱い……硬く大きく膨れあがつて、もう、限界状態で、今にも射精してしまいそうだ。この疼うずきに流されたら、際限なく放出絶頂を繰り返すことになる……それだけは、絶対にダメだ！）

過去の神伽においても、咲妃はフタナリペニスを使うことを極力避けてきた。

あまりにも敏感で、絶倫すぎる美肉の柱は、一旦快感の虜となってしまうと、彼女の強靱な意志さえも裏切り、熱い精液を幾度も噴き上げて、悦楽の泥沼に引きずり込んでしまふのだ。

特に今回の相手は、これまで神伽してきたレベルを遥かに超える最高位クラスの神格で、おまけに陽の精気に飢えきっている。

半端な神氣しんきを練り込んだ精液では、何百回捧げても鎮めきれないだろう。

(耐えて……耐え抜いて、力の及ぶ限り濃縮した精を女神様に召し上がっていたただかねば……だが……股間の疼きが、いつもより強い、これ以上の愛撫には耐えられない)

神伽の巫女に危機感を抱かせているのは、限界を超えて張り詰めたペニスの疼きだけではなかった。

淫女神によってアヌスの奥に植えつけられた前立腺が、これまで感じたことのない、甘く切ない快感を伝えてきて、逆ハート型の豊臀がもどかしげにくねってしまう。

「摩羅が張り詰めて辛そうじゃのう。竿比べの興を見せてもろうた褒美じゃ、うぬも存分に精を放つがよい」

上機嫌の女神は、涼やかな声で射精許可を下す。

「そつ、それは、ありがたきお許しなれど、まだ、気の練り込みが不十分でございます。

御前に伽とぎさせていただく支度が調いますまで、しばしのご猶予をいただきたく……」

苦行を終えた神伽の巫女は、今にも弾けそうな勃起の疼きに眉を寄せつつ申し出る。

「構わらわわぬ。妾は精を放てと申しておるのじゃ。男子どもにとどめの一矢をくれさせてやる故、うぬも観念して存分に放つがよい」

桜園おうえんの支配者は、神伽の巫女の願いをあつさりと却下し、下僕化した男たちに目配せする。

「ヒへへへッ！ 咲妃ちゃん、また遊ぼうねえ。今度は何をしようかなあ？」

「咲妃ちゃんのもの欲しげな目、色っぽいねえ。おつきくて美味しそうなピンク色のチンポも、ビッキビッキに勃起してるじゃねえの」

フタナリ美少女とのペニス摩擦で背徳感に目覚めた男たちが、射精欲求に悶える咲妃に群がってくる。

「どうしたの咲妃ちゃん、色っぽいお尻クネクネさせちゃって。ひよつとして、誘ってるのかなあ？ また、オレの黒チンポとグリグリしたい？」

背徳的な兜合わせによって淫情のオーラを鎮められて、少し大人しくなっていた若者たちであったが、咲妃を見つめる目には、歪んだ欲望の光が宿っている。

股間で燃え盛っていた焰は沈静化しても、淫女神の飲ませた媚薬蜜の発情効果は、まだまだ健在なようだ。

「巫女よ、摩羅へのとどめを男どもに恥じらいねだって見せよ」

恥戯好きなき桜の化身は、卑猥なおねだりを命じてくる。

「う……くふうう……」

苦悩の表情を浮かべて呻く神伽の巫女であったが、ここで淫神の機嫌を損ねるわけにいかないことは、百も承知している。

（こんな男たちに射精のおねだりなんて、屈辱的だが、それが女神様の無聊を鎮めるといふなら、仕方がない……何度射精させられることになるか判らないが、この神伽、何とかしてもやり通す！）

「……おつ、お前たちにいつぱい擦られて、精液をぶちまけられたお陰で、私のペニスも、もつ、もう限界だ……ほら……みつ、見てくれ……」

覚悟を決め、色っぽい声と表情で語りかける呪詛喰らい師の股間で、精液まみれの美肉柱がピクピクと切なげに跳ね上がって、若者たちの興奮を煽る。

異様な静けさに支配された桜園に、誰かが生唾を呑み込む音が、ゴクリ、と響いた。

「ペニスなんてお上品な言い方するなよ。エロエロなフタナリチンポだろ？ もつと腰を突き出して、下品におねだりして見せろよ」

咲妃が女神の命令に背けぬことに調子づいた茶髪男が煽る。

「くっ……！」

一瞬、殺気立った表情を浮かべた咲妃であったが、込み上げる感情を押し殺し、望まれ

るがままに振る舞う。

罵状触手に手足を縛められたまま、上体を反らし、腰を突き出すようにして仰け反り気味の体位を取ると、疼き猛ったフタナリ勃起がさらに際立つ。

極上美少女の股間から天を貫かんばかりに屹立した牡器官が、塗り込まれた精液にヌラヌラと照り輝いて、男どもの視線を釘づけにする。

「んあ……あんッ！ フタナリチンポの奥で、ドロドロのチンポ汁が渦巻いていて、弾けてしまいそうで、切なくて……ガマンできないイッ！ お前たちの……チンポ汁シャワーで、とっ、とどめを刺してくれ！ しゃ、射精させてくれっ！」

恥ずかしいおねだりをしながら、下腹の筋肉を緊張させ、鈍痛を感じるほどに強ばった勃起を過剰にしゃくり上げて見せつけると、先ほどまでの背德的な行為によって緩みきっていた若者たちの理性は、あっさりと吹き飛んだ。

「くうううっ！ もう、たまんねえ！ チンポ同士ゴリゴリ擦って、思いつきりブツカケてやるよッ！」

鼻息も荒く押し寄せてきた男たちが、満員電車顔負けの密度で両性具有の少女に殺到する。

「ねっ、ねえ、咲妃ちゃん、また、エロエロな声出しながら射精して見せて……ボクも同時に射精ッ！ 射精するから！」

「咲妃ちゃんのエロエロチンポ……気が変になりそうならい気持ちよくしてあげるからね！ ああ、すげえ綺麗なピンクの亀頭が、はち切れそうじゃないか！」

興奮した若者は、互いの勃起がぶつかり合うのもいとわず、先を争って腰を突き出してくる。

ぐりゅっ！　ぐちゅぐちゅぐちゅずりゅずぬちゆるるるッ！

精液にぬめ光って反り返ったフタナリペニスが迫る勃起の群れに挟まれ、発火してしまいそうな勢いで摩擦された。

「くああ！　熱いッ！　灼けるんんんーッ！」

苦悦に美貌を歪めるフタナリ巫女的美肉柱が四方八方から突き^{なぶ}刺られ、猛った海綿体同士が互いをへし折らんばかりに押しつけせめぎ合う。

「にっ、逃がさないぜ！」

「逃げちゃダメだよ……ああ、咲妃ちゃんのお尻、凄い弾力だね」

強烈すぎる刺激から逃げようと腰を引く呪^カ詛^ス喰^イらい師の尻を何本もの手が押さえつけて動きを封じ、ポリウム満点の尻肉を揉み立てながら、よりハードな肉竿同士の乱闘を続行する。

くちゅ、ぐちゅるっ、ぐりゅっ、ぐりゅっ、ずちゅずちゅずちゅずちゅッ！

硬く張り詰めて反り返った美少女の肉茎に男の先汁が塗り込まれ、艶^{あで}やかに色づいた先

端部を取り囲んだ亀頭が、グリグリと過剰な圧力で押しつけられた。

きつく押しつけ合った鈴口がまるでディーブキスでもしているかのようにひしゃげながら擦れ、互いの先汁が混じり合い泡立てられて肉胴を滴り落ちる。

「ハアハアハア、チンポの先っぽ同士グチュグチュされるの、咲妃ちゃんも好きだよね？
こうやって擦られると、喘ぎ声のキーが上がるもんね♪」

生臭い吐息を吐きかけながら、ニキビ面の若者が声をかけてくる。

「くああう！ すっ、好きじゃ……ないっ！ しっ、刺激が強すぎて……ひああんっ！
そっ、そんなに強く擦るなあ！」

過剰な圧迫刺激を受けた亀頭から発生した、痺れるような悦波に悶える咲妃の痴態は、
男たちのサディスティックな衝動をますます燃え上がらせてしまう。

「エロい顔してよがりながら、こんなにチンポピンビンにしておいてよく言うぜ。ほらほら、ここのワレメちゃんをズリズリって擦られるのが気持ちいいんだろ？」

透明感のあるバラ色に充血し張り詰めた亀頭に、赤黒い巨根の先端が容赦なく押しつけられ、潤んだ鈴口が強引に押し開かれる。

「あひんっ！ んあ、はううううんんっ！」

火傷しそうに熱く張り詰めた亀頭同士が、互いが吐き出す愛液を塗り混み合いながら互いを呑み込まんとする蛇のようにニユルニユルと睦み合う刺激は、快感の稲妻となつて勃

起の芯を駆け抜け、恥骨の裏側に形成された射精中枢に突き刺さる。

汗ばんだ美貌が、ペニス責めの過剰な快感に歪み、喘ぐ唇の端から喜悅の涎がこぼれ出て、形のいい顎のラインを伝い落ちた。

「その表情、超エロいよッ！ もっともつと気持ちよくなつてよ！」

喜悅の涙に潤んだ目を切なげに細め、甘い喘ぎの止められぬ口から舌を突き出してよがり悶える美少女の痴態に、さらに激しく昂ぶつた若者たちは、淫らな腰振りに熱を込めた。にちゅ、にちゅ、くちゅ、ぎゅるっ、ずちゅ、ぐぎゅるるっ、ぎちゅっ、ずりゅずりゅずりゅ、ぎちゅるるぐりゅるッ！

「あはああ、あつあつアッヒッ、あはあああんッ！」

本来ならば男の器官であるペニスを責められているというのに、フタナリ美少女の上げの声は女の艶めかしさを強めて、甘く透き通つてゆく。

（ダメだ……これ以上は、耐えられない！ 射精……してしまおうっ！）

女悦を封じられた呪詛喰らい師の肉体で、ペニスの快感だけが際限なく肥大化し、堪えようのないフタナリ精液のマグマが、巨根化した花芯の中を込み上がってくる。

「やべえ、咲妃ちゃんのチンポズリズリ気持ちよすぎるッ！ 出すぞっ！」

「ボクも……くううッ！」

陰茎海綿体同士が癒着してしまいそうな密着状態で押しつけられた牡器官が、ビクビク

と甘美な脈動を起こすのが、神伽の巫女の勃起にも伝わってきた。

「また……出すのか……ああ、私も……もっ、もう……ッ！ 出……ちやううううんんッ！」

色香の化身のような咲妃の震え声が、男たちの射精中枢を直撃し、居並ぶ肉槍の群れを一気に弾けさせた。

びゆくんっ、びゆくびゆくびゆくんっ！ びゅぐびゅぐびゅぶううううッ！ ずびゅろろろろおおおッ！

密集隊形の男根から放たれた灼熱のザーメンシャワーが咲妃のフタナリペニスを直撃し、バラ色に上気した媚肉柱を白濁の粘塊で覆い尽くす。

「やああああ！ 熱いッ！ あっ、ああああッ！ イクッ！ イク……んあああううううッ！！」

感度を増したペニスの表面に浴びせ掛けられる灼熱の牡マグマが、決壊寸前で持ちこたえていた忍耐の堤防にとどめの小穴を穿つ。

男たちの放つ精液の集中攻撃を受けた美少女の勃起が激しくしゃくり上げ、総毛立つような射精快感が緊縛ボディを激震させた。

びゆくんっ！ びゆくびゆくびゆくどびゆるるるるうううっ！ びゆるうううっ！ ござっ、ござっ、ござっ、ござっ！

咲妃の勃起が真珠色の絶頂粘液を噴き上げると同時に、待機していた花つき触手が亀頭をしつかりと咥え込み、勢い良く迸る喜悦汁を残らず吸い上げてゆく。

「ふあ！ あっあっあっあんっ！ いっ、ヒッ、出るッ！ チンポ汁っ、出るのが……とっ、とまらないいい！ フタナリチンポが狂うッ！ んはああううううッ！」

M字開脚状態の下半身をカクカクとせり上げ、下腹の筋肉を断続的に息ませて、甘美な絶頂粘液の放出を続ける。

フタナリ美少女の射精は、数分にわたって続き、文字通り精魂搾り果たした神伽の巫女は、半失神状態でグッタリとうなだれた。

「先ほど放ったよりも、精が随分多いではないか。よきかな……」

精液採集を終え、手元にやってきた花杯からこぼれ落ちそうな程に溜め込まれた美少女の射精液を検分した女神は、ワイングラスのような形に開いた花卉に唇を寄せ、豊穡な陽の気をじっくりと味わいつつ飲み干してゆく。

「じゆる……んくんくん……くちゆくちゆく……んふ……こくん……。思うた通りじゃ、うぬの発する恥悦の情と、男子どもから燃え移った淫情の焰が精汁に溶け込んで、滋味が増しておるわ。もっと恥じらい乱れて、恥悦の情を精に練り込んでたもれ」

極上の滋養を含んだ美少女の精液を舌の上で転がし味わった桜の化身は、妖艶な笑みを浮かべて神伽の巫女をねぎらう。

淫靡な微笑みを浮かべた桜の化身は、体液にぬめった指先をペロリと舐め、背後で待機していた若者たちに振り向く。

「男どもよ、この巫女と交わりたいかえ？」

淫女神の唐突な呼びかけに、全員が激しく頷いた。

「おっ、お待ちください！ 私は神伽の巫女、男子との交わりは最大の禁忌にございます。なにとぞ、他の作法にて……なにとぞッ！」

「異なることを申す。うぬは生娘きむすめではあるまいに？」

うずたかく積もった花弁の上に平伏し言上する神伽の巫女に、淫女神は冷たく命ずる。

「さっ、左様にございますが……」

美貌を強ばらせる呪詛カリスイーター喰らい師の脳裏に、犯され乱れ抜いた記憶が蘇る。

数カ月前、自らを呪って異界に堕ちた先代の神伽の巫女、常磐城久遠とぎわぎくおんによって処女を奪われ、さらに、咲妃に対して抱いていた淫情を活性化させられて淫魔化してしまった信司しんじにも激しく犯されてしまったのだ。

神伽のためとはいえ、人間の男に犯されることには、どうしても抵抗を感じてしまう。

「作法は任せる故、男子おのこどもの精汁、残らず搾り取り、その体内で練り上げよ！」

「……仰せのままに……」

やる気満々の男どもの股間でそそり勃っているペニスを憂鬱げに見ながらも、



呪詛喰らい師は、うずたかく積もった花卉の上に這う。

「そのたたずまいは、うぬの麗しき摩羅が見えぬ故、面白みに欠ける。仰向けになって男どもを誘え」

「はい……。ンッ……。お前たち、私のアナルに挿れていいぞ。口も使つて……。フェラ奉仕してやる」

あくまでも男性器にこだわっている淫女神に命じられるがまま体位を変えた神伽の巫女は、美脚を割り開いて男どもを背徳の行為に誘う。

「すげえ……。咲妃ちゃん、エロエロだ……」

喉奥から搾り出すような声を上げた男の股間で、待ちきれない勃起が跳ねる。

薄桃色の光に垂らし出された咲妃の裸身は、堪らない色香を放つて、男たちを魅了していった。

仰向けになっても型崩れしないお椀型の爆乳は、塗り込まれたローション粘液に照り輝き、プリンのようにフルフルと柔らかく揺れ震えている。

射精封じされたフタナリペニスは、放出をおねだりするかのようピクンピクンとしゃくり上げ、半透明の花弁を貼りつけられた女性器は淫猥な造形を透けさせて、倒錯的な色香をムンムンと立ちのぼらせる。

花卉を貼りつけられて封印された秘裂のすぐ下、美しくも卑猥にすぼまった薄紅色のア

ヌスは、排泄器官とは思えない清浄で艶めかしいたたずまいを見せつけて、もの欲しげに収縮して挿入を待ち望んでいた。

（くううっ！ 男たちの視線が痛い程に突き刺さってくる……神伽のためとはいえ、こんな破廉恥な恰好をさせられてしまうなんて……）

身体の奥底から、羞恥心がチリチリと湧き上がってきて、精液の残滓ざんしをこびりつかせた美貌が悩ましげに歪む。

「咲妃ちゃんみたいなエロエロのフタナリ美少女とアナルセックスできるなんて、夢みただい！ もう、死んでもいい、死ぬまでやりまくってやるッ！」

全てが一望できる至上の位置に、一番乗りで陣取った男は、込み上げる欲情に全身を震わせながら、薄紅色をした呪詛カリススイ喰らい師ダのアヌスに赤黒く膨れあがった亀頭を押し当てた。
きゅむ……ぐりゅっ！

「ク……はあう……」

熱く猛った亀頭が触れてくる感触に眉を潜めて小さく呻いた咲妃の肛門が、挿入を拒むかのように、キュンッ！ と引きすぼめられる。

「いつ、挿れるぞ！ 力抜けよ……」

興奮で声を震わせた男は、強引に腰を進めて、強ばった肛門括約筋をこじ開けて挿入を仕掛けてきた。

ぎゅむんっ！　ぎりゅっ……ずふうううッ！

神伽の門として練り上げられ、常に清浄を保たれている可憐なすばまりに、はち切れんばかりに猛った亀頭がズプリとめり込む。

「んっ……くふう……んふううう……んっ！」

強引なアナル挿入に呻き、形のいい顎を仰け反らせる咲妃。

「以外とすんなり入っちゃった……！　もしかして、咲妃ちゃんってアナルセックス経験あるの？」

「んっ……く……ある……何度も……ある……」

極上美少女の正直なカミングアウトに、男たちがどよめく。

「それなら遠慮なく動いちゃっていいよね？　……くううっ！　咲妃ちゃんのアナルの中、温かくて、チンポがキュウキュウ締めつけられて気持ちいいッ！」

欲情を煽られた男は、咲妃の太腿を抱え込み、腰を振り始めた。

ずぶっ、ぬぶっ、ずりゅっずりゅっずぬうううっ！

可憐な肛門括約筋をまくれ返らせて、熱く堅く猛った男根が抽挿ちゅうそうされる。

「はふうんっ！　うあ、なっ、なんだ、この感触は……!？」

これまで体験したことのない快感の波に襲われたフタナリ少女の身体が、ギクンッ！と緊張した。

淫女神に植えつけられた前立腺を、硬く張り詰めた亀頭がズリズリと掻き擦るたびに、フタナリペニスの根元奥で、心地いい痺れが幾度も湧き起こる。

「んあ！ あっ、くんっ、あ、あ……はああんっ！」

アナルを犯される少年の喜悦を体験させられたフタナリ少女は、悩ましげな声を上げ、射精封じされたペニスをしゃくり上げてよがり悶えてしまう。

「ああ、フタナリチンポがすげえビクビクしてる。咲妃ちゃん、アナルセックスで感じるんだね？ もっともつと感じさせてあげるよっ！」

ペニスを生やした美少女の痴態に興奮した男の腰使いは、さらに激しさを増してゆく。「んあ、あふっ……んッ、んはんっ！ きっ、キミたち、二人一緒に……きて……口で……してあげる」

アナルを犯され、前立腺を擦り責められる背徳の快感に喘ぎながらも、神伽の巫女は、勃起をそそり勃たせたまま順番待ちしていた年下の少年たちを、艶めかしい声で誘惑する。「う……うん……」

親友同士らしい少年たちは、互いに顔を見合わせながら、咲妃の両側に膝立ちになり、まだ生育途上の小振りなペニスを突き出してきた。

「もつと近づいて……そう、もつと腰を突き出して……はむ、んちゅ……あむんっ」

優しく、そして淫らな囁きで年下の少年たちを誘導した神伽の巫女は、勃起しても包皮

を被ったままの包莖ペニス、二本まとめて口に含む。

小振りな包莖ペニスも、二本束になると、咲妃の口腔内をいっぱい満たし、罪悪感を伴った妖しい歓喜の波が咲妃の肢体を震わせた。

花状触手にさんざん嬲られ、何度も射精した後なので、恥垢は全て拭い取られていて、不快な臭気や味は感じられない。

「ふぁ！ おつ、お姉さんッ！」

硬く充血した牡器官同士が、熱く潤んだ美少女の口内でギユリギユリと擦れ合う異様な刺激に、少年たちは女の子のような喘ぎを漏らし、肉づきの薄い尻たぶを緊張させる。

(この初々しい反応……。ペニスを舐められるのは、初めてなんだろうな？ 記憶と肉体に後遺症を残さぬように、事後の処理をちゃんとしてやらないと……)

神伽の後の記憶消去処理に思いをせつつ、咲妃は未成熟な亀頭に愛撫の技巧を注ぎ込んだ。

「んは、ちゅぷ……くちゅ……ちゅぱ、じゅるっ……ずちゅるるっ……」

包皮と亀頭の隙間に舌先を潜り込ませ、刺激慣れしていない亀頭冠をヌロヌロと舐め回してやると、まだ男になりきっていない華奢な裸身がガクガクと震え始める。

アナルを犯している男の怒張が送り込んでくる前立腺快感に抗うかのように、咲妃はフエラ奉仕に没頭した。

(そろそろ射精して欲しいのだが……まだ、刺激が足りないのか?)

包皮の下で舌を蠢かせながら見上げると、興奮で顔を真っ赤にした顔に泣き笑いのような表情を浮かべて射精を堪えている少年たちと視線がぶつかった。

(可愛い……)

母性愛というよりは、弟に対して姉が抱くような感情に目を細めつつ、咲妃は頬をすぼめて二つの亀頭を吸い上げる。

「んふ……じゅるっ……ずちゅるるるっ！」

容赦のない吸引を受けた二つの亀頭が、口内でビクビクと切羽詰まった痙攣を起こす。

「おっ、お姉さん、ボク、もう……ダメええ！」

「あああ、ゴメンなさいッ！ うくううううッ!!」

甲高い声を上げた少年は、歓喜の極みを迎えて、華奢な裸身を強ばらせる。

びゅくびゅくびゅくびゅるるるっ、どびゅるるっ、どくどくどくどふううっ！

口の中で二本の包莖ペニスが歓喜の脈動を起こし、ゼリー状に濃縮されたスペルマを射出した。

「んふう！ んく……んぐんぐんぐグクンッ……」

口内で暴れる二本の勃起をしっかりと啜え込んだ神伽の巫女は、競うように射出される若牡の体液を残らず飲み込んでゆく。

「すっ、すげえ……咲妃ちゃん、オレも出すよッ！」

二人の少年を手玉に取り、同時口内射精を飲み干してゆくフタナリ少女の艶姿あですがたに興奮した男のペニスが弾け、直腸内に熱いスペルマをぶちまけた。

「きゅふううう！ んふうううううッ!!」

腸内射精の衝撃に甘い呻きを漏らす咲妃の口から、放出を終えた二本の勃起が抜け落ちる。

「咲妃ちゃん、ボクのチンポも舐めて！」

「つつ、次はオレが咲妃ちゃんとアナルセックスするんだ！」

口元に新たな勃起が突きつけられ、股間にも次の男が割り込んでくる。

「んくっ……ゴクンッ……。いつ、いいぞ。どんどんこい。私が全て受け止めてやる」

いつものアナルセックスとはいささか勝手の違う前立腺の疼きに身を震わせながらも、呪詛カリスイター喰らい師は男どもを挑発した。

行為を開始して数十分で、男どもは一通り咲妃の体内に射精し、それでも飽き足らずに二巡目に突入してゆく。

（まだ……なのか？ まだ、射精できるのか？）

求められるがままにフェラチオ奉仕しながら、神伽の巫女は焦燥感を覚えている。

今、している行為は、神伽の前座にすぎないのに、それがいつ果てるかも判らず、延々と続いているのだ。

何本ものペニスを挿入され、異なる角度や深さ、リズムで擦り廻られた前立腺は、解消されぬ射精欲求を溜め込んでジンジンと疼き昂ぶり、口内射精を幾度も受け止めた舌には精液の味と粘りがネットリと染みついている。

(早く済ませて、女神様に伽をしなれば……)

焦る咲妃の中で、熱い強張りがストロークして甘く切ない前立腺快感を絶え間なく送り込んでいた。

「うはあ、アナルセックス、超きもちいい。……咲妃ちゃんのチンポも射精させてあげるよ！」

陶酔とうすいの表情を浮かべてアナルを犯していた男の手が、止める間もなくフタナリペニスを握り締め、手淫責めを仕掛けてきた。

ぎゅりっ！　ぎちゅっ、くちゅくちゅくちゅくちゅっ！

美少女の股間で苦しげにヒクついている勃起が慣れた手つきで扱き立てられる。

「ふおお！　やつ、やめ……！　んああああんッ！」

フェラ奉仕していたペニスを吐き出し、あられもない声を上げた咲妃のフタナリ裸身が弓なりに仰け反り、強ばった。

手コキ責めされたフタナリ勃起から送り込まれた快感が射精中枢を直撃し、少年の絶頂感が呪詛喰らい師を襲う。

「イツ……くふううううンッ！」

射精封じされたペニス、男の指にしつかりと握られたまま、ビクビクと空撃ちの脈動を起こし、絶頂に連動して引きすぼめられた肛門括約筋が、アナルを犯していた男の勃起をギチギチと締め上げる。

「くお！ すつ、すげえ締めつけだ……んお、おおおうつ！」

肛門を犯していた男は、背徳的な行為によつてもたらされる超絶快感の虜となった。

絶頂しても射精できないフタナリ少女のペニスを荒々しく抜き廻りながら、激しく腰を使い、あつという間に限界を迎える。

「出るッ、出るぞっ！」

ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッ、びゆるうううつ、どびゅつ、ぶつびゆるつ、どぶつ、どぶつ、ドクンッ！

肛門括約筋に強烈に締め上げられた男の怒張が断続的に脈打ち、濃厚な精液を射出した。
（くううつ！ 私は出せないのに……いっばい、中に出てるッ！）

怒りにも似た焦燥感が込み上げてきて、神伽の巫女的美貌を歪ませる。

「んは……あああ……咲妃ちゃんのアナルにいっばい出たあ、きもひ……いいい……」

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

『呪詛喰らい師』関連作品のご紹介

あとみっく文庫



呪詛喰らい師

カースイーター
シリーズ

蒼井村正

挿絵 / 或十せねか



全国の書店・電子書籍サイトにて発売中!

速報!

『呪詛喰らい師』
コミカライズ決定!

常盤城咲妃
ようしく

原作: Rusty Soul
作画: 或十せねか
原案: 蒼井村正

『正義のヒロイン姦獄ファイル』にて
連載スタート!!

二次元ぷち文庫

電子書籍でしか読めない!
ドキドキ★ラブ!

呪詛喰らい師外伝 シリーズ

夏祭り封神譚

餓神乳辱 前編・後編

淫女神の森 前編・後編

蒼井村正

表紙イラスト: 或十せねか

好評配信中!

